

哲學研究

第四十六號

第五卷
第一冊

北米の國土と其藝術

松本亦太郎

印度、支那、日本等の東洋諸國の富と文明とに對する憧憬が重なる動機になり歐洲人が米國に渡つて來た。歐洲人の考が西方に向たのは歐洲より亞細亞に達する陸路が土耳其の勃興の爲めに杜絶された爲めであつた。十五世紀の終に英國の探險者がラブラドルの海岸は日本に至るの通路であると考へたり、西班牙の探險者が南米の東岸を西亞細亞と認めたり、又十七世紀の始に、和蘭陀の探險者がホドソン河を溯行すれば亞細亞に達するだらうと考へたりしたのを見ると、歐洲人の亞細亞に達したいと云ふ希望が如何に熱烈であつて、此熱情に誤られて、地理的關係を如何に速斷したかと云ふ事が譯る。

其後になり米大陸は亞細亞で無いと云ふ事が譯つた、然かし亞細亞に對する精神

的及物質的の憧憬は消長はあつたが二三百年の間に益盛になり、亞細亞の文明なり
國土なりを領有しやうと云ふ努力が益具體的になつて來た。これは實は白人の世
界的擴張と云ふ人種的精神の大努力が漸次に實現する一方面であるかも知譯らない。
然かしさう考へると問題が餘り大きくなるから今は觀察の眼界を米國に限り、而か
も藝術の方面丈けに限りて見ると、過去半世紀殊に過去四分の一世紀に互りて米國
は亞細亞文明の長所たる藝術的作物を領有せん爲めに大なる努力をなし、東洋の美
術品を夥しく其國內に蒐集し得た。之を蒐集する目的の那邊にあるかは米國人自
身も明に意識してゐないやうである、只集めらるゝ間に出來る丈け多く亞細亞の藝
術品を自國內に蓄積して置かうと云ふ一種の熱情に驅られて集めてゐる。勿論米
國は新しい國だから、古い歴史の由緒ある物を買ひ集めて其國を飾りたいと云ふ考
があり、或は歐洲の文明國と蒐集を競ふと云ふ事もあつて、如上の蒐集を助けて居る
が夫は附帶的の考に過ぎないだらう。斯の如くして米國に盛に集められつゝある
日本、支那、印度、波耳斯亞等の藝術品は漸次に米國人の思想、趣味、生活の上に影響を及
ぼし始めた、將來に於て其結果は政治、法律、經濟上に及び米國文明を或る程度まで着
色して行くだらうと思はれる。既に今日に於ても米國の繪畫、彫刻、演藝等の藝術衣

服、裝飾、器具等の工藝及日常生活の或る部分は東洋藝術及趣味の影響を受け始めたと認めらるゝ。

米國の生活及藝術が東洋藝術の影響を受くる事は良好なる結果を生ずる。概して言ふと米國の藝術は動力的で繪畫を以て例するにサーヂェント (Sargent) の作の如きは米國藝術の一代表と見る事が出来る、米人はサーヂェントの作に現はるゝ如き不安なる緊張せる複雑なる生活をしてゐる。東洋の藝術は概して安靜弛緩單純の趣味が頗る重をなしてゐる。此東洋の趣味が米國人の生活及其藝術を緩和する事少くとも其生活及藝術の或る部分が斯る緩和の影響を受ける事は望ましい事である。

ホイスラー (Whistler) の作には日本畫の影響を受けたものが尠くない、ホイスラーは是迄は米國人によく了解されなかつたのが近來之を味ひホイスラーを以て米國の畫家なりと要求する聲が漸次聞えるやうになつて來た。ホイスラーの後半生の藝術は米國的では無い寧ろ歐洲の藝術と或る度までの日本藝術とを融合せしめたものと謂ふ方が適當であらうと私は思ふが、米國人がホイスラーを了解し始めたのは一面に於て東洋趣味を多少了解し始めたが爲めであるとも見られる、ホイスラーの藝術に現はるゝ如き安靜的、永久的、情趣的而して主觀的なる條を米國の藝術が其一

4
方面として有つに至る事は米國藝術の發達上餘程望ましい。繪畫のみならず彫刻の方面に於ては殊に此事が必要である。米國の彫刻は活動的要素が勝ち過ぎて、其彫刻たる價值を減損してゐる趣がある。

米大陸發見の主なる動機になつて居た、東洋に對する憧憬と云ふ事が其物質的方面にのみ重が置かれず、精神的藝術的方面に眞の重が置かれ、東洋藝術の眞粹を領有すると云ふ事が益行はるゝなら、米國の藝術は面白い姿のものになるであらうと思はれる。東洋藝術の影響は將來の米國藝術上に漸次大になつて來るだらうと思はれるが、今此方面を姑く措いて觀察すると米國の藝術は勿論其系統を歐洲の藝術に引いて居つて米國藝術の初期は歐洲藝術の反復であり、模倣である。而して其藝術上の刺戟は其後も斷えず歐洲から來た。然るに最近に於て藝術家が米國の自然と、米國の社會生活に對する自覺を生じ、米國の國土に其根柢を有する藝術を發達せしめんと、の努力を生ずるに至つた。

二

歐洲人が發見した大西洋彼岸の國土は亞細亞では無くして、全く新世界である事

が譯り、歐洲民族の新世界移住の現象が起つて來た。其移住の動機は夫々の國民の場合に於て異つて居たが、將來米國に藝術的刺戟を與へると云ふ點から見ると歐洲の移住民を三の部類に分けて見る事が出来る。即ち英國、佛國及西班牙國よりの移住民である。此三移住民に關係せしめ米國の藝術を考察するのが正當である。

英國よりの移住民はニュー・イングランド、ヴァージニア、ペンシルヴァニアに土着した。此の中でニュー・イングランド地方に土着した英移民は清教徒であつて、凡ての形式に反抗し、美術を排斥し、美的享樂に對しては禁制の札を立てた。個人の良心の權威に非常に重きを置き、自由獨立の精神を發揮した點に於て米國の發達には重要なものとなつたが、藝術の發達には此一群は縁が淺い。英國移住民中で英國風藝術の移植に深い關係を有つてゐるのはヴァージニアの方に根據を据へた一群である。此一群の中でも最初一六〇九年に來たものの中には英本國に於る冒險的失敗者があつた。新世界の黄金を探がし、延て太平洋の方へ途を取り、寶の國なる亞細亞に向きたいと云ふ動機に催されて移住した。これは美術の發達には關係が薄い。其後一六四〇—一六六〇年に來たものは本國に於ては地主であつてヴァージニアに大なる耕作地を有した。英國の郷土生活の習慣を米國の荒野に輸入したのは此移住者であつた。是等は概

して貴族氣質を有し奴隸を使役して其大所有地を耕作せしめ、自ら其主人公となりしものであつて、儀式外觀を重んずる英國教を米國に輸入した。大統領となつたワシントン、やマディソンなどは此部類の出身で、其生活の理想が英國の上流社會にあり、衣食住が概して英國式で、自然の美を樂み、相當に藝術を愛し、又社交上の怡樂に心を注いだ。是等移住者の生活状態を今日我々の眼前に彷彿せしむるものが二つある、其一はマウント、ヅォルノンにあるワシントン及其一族の居住した邸宅である。これはポトマック河に沿ふたる廣大なる土地にして、森林あり、田園あり、墳墓あり、住宅は豪農風にして、自ら耕し、自ら織り、自給自足の狀全く英本國の郷土にある貴族の邸宅マンチオンの再生である。私は曾てペンシルヴァニアの開祖たるウヰリアムペンの邸宅の跡を英國のストローク、ボーヂエスに尋ねた事があつたが、其趣がマウント、ヅォルノンのワシントンの邸宅に酷似してゐる。而してワシントンの如き質素な生活をした人でも其家の什寶家具の類を點檢すると、美術的趣味の十分に加味せられて居た事を眼前に見る事が出来る。他の一はヒラデルヒヤの舊議事堂にあるフェルリス(Ferri's)作の米國歴史畫である、これは五十八枚あつて、何れも考證的に新大陸の發見以來の歴史上の事變を描いたものである、而て寧ろ社會的の生治に重が措かれてある。此中にマウ

ント、ヴァルノンを中心としヴァチニアの上流階級の生活を畫いたものが多數を占めてゐる。之を見ると今の米國人の生活と異りて、全く英國風である。尤も幾分か佛蘭西の社交生活の影響を受けた状態も見える。家庭内なり社交上なりに英國趣味が深く根ざしてゐる狀況が此繪畫に細かに描かれてある。

以上二つの實例に徴して見ると米國獨立の前後に於て立國の中堅になつた英移民の趣味が比較的明瞭に窺はれ、此趣味に擁護され其生活を飾る爲めに現れた米國最初の藝術が如何なるものであつたかと云ふ事が略ぼ推察する事が出来る。此系統に屬する藝術的作品としては繪畫が多く遺つて居る而かも其多數は肖像畫である。或は肖像の縮小畫もある。獨立戰爭(一七七五年)に關しての事變を畫いたものもあるが多く人物畫である。モデルになつた人物が英國風の人間で、服裝姿勢なども英の本國にある肖像畫と同様に描いたもので、英國の肖像畫を模倣したものである。未熟の技術を以て植民地の紳士や、上流婦人を畫いた類の人物畫が尠くない。然かし中には老熟の技巧に達したものもある。ウエスト (West, 1738-1821) トラムブル (Trumbull, 1756-1843) コプリー (Copley, 1737-1815) アルスタン (Allston, 1779-1843) ペール (Peale, 1741-1827) の如きは夫れである。然かし是等畫家は米國畫家と云ふよりも寧ろ英國風の

8
畫家として、見る可き程度に達したものである。就中スチュアート (Stuart, 1735-1828) は其代表的のものである。其作ワシントン及其夫人の肖像畫は故らに未成の状態に描いたものであるが、英國風の肖像畫として最も出來の佳いものである。ボストン美術館所藏のものは生寫しをしたもので、これは英國に持ち行くも立派な價值を附せらるゝ程の作品である。

ギルバートスチュアートは其生涯の或る時期を英國に過ごした、スチュアートの居つた時は英國繪畫の黄金時代で、レノルド及びゲインズボローが活躍して居つた。又やゝ後れてコンステイブルも出た、而して英國の大畫家たるウリアム、ホガース (Hogarth) もまだ生存して居た、是等畫家の間に伍してスチュアートは相當の名聲を有つた、而して米國畫家中では拔群の位置に立つてゐた。ワシントンを描いた畫家は他にもある、ウヰルソン、ピールはワシントンの壯年の力の最も盛なる時代を描いたが、スチュアートはワシントンの晩年を描いた、即ち其性格が圓熟し、重い責任の爲め顔色が穏かな稍憂愁の色を帯び却て無限の趣味を示してゐる筈を寫し出した。ワシントンの性格の深みを描き出たすに於て、當時の畫家中スチュアートに及ぶものは無かつた、ウエストの如きがワシントンを描いたなら、誇大なる英雄の姿を描き恐くワ

シントンを演劇化したであらうと或る批評家は言つた、ステューアードは人間の情操、美徳、性格を描かんと望みワシントンに此三の物の體現せらるゝを認め之を寫し出したのである。

英國風の健全なる技巧が米國に傳はつたのは以上擧げたる諸畫家及其門流に負ふ所がある、加之米國の歴史及社會より見て大なる興味を喚起する多數の肖像畫を出だしたのは是等畫家の努力によつたのである。肖像畫は英系の米人の嗜好に投じ、一方に於て縮小肖像畫の如きものを生じ、之を裝飾品として用ふるに至つた、ヒラデルヒヤあたりにも其遺風が存してゐる。上流の人々が英國風の肖像畫に表現せらるゝを好み、又藝術家が英國風の肖像畫を其藝術の模範とせんとした結果は英國肖像畫の蒐集慾となりレノルド、ゲインズボロー、ローレンス、ホップネル、ロムネーの作、殊に是等英國畫家の婦人肖像は米國東方の上流階級の熱望する所となつた。尤も英國の肖像畫に現する如き落着きのある餘裕のある人物や氣高い優美なる婦人の姿は米國の肖像畫には極めて稀に之を見出だすに過ぎない、然かし肖像畫の技巧は全く英國畫の刺戟を受けて發達の道程に上つたのである。

三

佛蘭西の移住民中紐育と南カロライナに來はのはヒュゲノトの一群であつた。彼等一群の男女は宗教上の根柢深き確信と不屈不撓の勇氣とを有つて居たが又彼等は人生の怡樂に對する趣味を有し社交生活を享樂する特徴を有して居た。此ヒュゲノトは一種の様式の教會堂を立て今日に遺つてゐるものがあるが、藝術上特に重要なものとは考へられない。一層重要であつたのにミスシヒト河の西方及其河口の廣漠なる土地に分敷されてゐた佛蘭西人であつた。此部分は佛國が其領土を米大陸まで擴大し、本國の利益に供しやうとした所でニユー・オルレアンスは夫等佛人の棲息する中心點であつた。ニユー・オルアンスの佛人は或る度までは佛國の藝術品を集め佛國風の住宅を構へ、佛國風の社會生活を發達せしめた、カーニヴァル大祭も今日まで繼續され、佛蘭西風のカフェエも發達し、南歐の氣分を漾はせてゐる。植民時代の佛國系の繪畫美術工藝品及古文書等はニユー・オルレアンスの歴史博物館に多く集められ、然る方面の考察をなすに恐く米國に於ける唯一の優秀なる蒐集であらう。此處に集められたものはヒラデルヒヤ或はヴァージニア地方にあるものとは

異り、佛國帝政時代の趣味を主として路易十四世の肖像畫や、佛國軍人の肖像畫などがある。佛本國より持ち來りしものが主で、多少は新植民地で出來たものもある。此博物館に大なる繪畫がある、夫れはナポレオン大帝が英國と死活の争闘をなし、其戰費を補充する爲め此大植民地を僅か千五百萬弗で一八〇三年に合衆國に賣り渡し、其結果政廳前の三色旗が引き釣りされ、米國の星條旗が引擧げらるゝ瞬間を畫いた圖である。此圖を見ると非常に惜い心地がせらるゝ。南部及中部の米國人は殊に他に對し愛想がよい、而して悠長であつて何となく氣持のよいと云ふのは一は此地方は農産地である事にも依るのであるが、又佛蘭西人の影響に負ふ所が多いのである。此佛國趣味の移植は將來の米國藝術の發達に對し良好なる準備を整へた事になる。然かし其後米國に起つた佛蘭西藝術に對する憧憬は米國人と佛蘭西本國との新なる接觸から起つて來たので、佛蘭西移住民の趣味なり其努力なりから來たのでは無い。米國に盛に行はるゝ小品青銅彫刻は佛國の小品彫刻に刺戟され或は夫れを模倣して漸次盛になつたのであるが、最も著く佛國藝術の餘を示して居るのはパルピゾン派の風景畫である。米國の山水畫中には着想技巧共に全くパルピゾン派に從て描いたものが、尠くない。ヂオデ、インネス(George Innes)の風景畫は其最も代表的

のもので、而も其最も優秀なるものである。インネスは想像に富み、靈性的氣分の豊なる、詩的趣味の深い人であつた。忠實に自然を寫さんとしては居るが其自然の中に靜なる宗教的情操の存するを認め、外面の美は精神の内面美の表現であると考へた。彼れは好んで森林に夕陽の沒する風景を畫く、而かも平地の趣を描くを常としてゐる。コロロイなどの畫と若し多少異なる所がありとすれば、夫れは日光を描く色彩の烈強なる事である、空は燃える如く描くと雖も、風景は多く朦朧たる暗色を用うる。インネスと同派の畫にマルティン (Martin) 及びワット (Watt) がある、孰れもインネスと同様に情趣を以て風景を着色せんとしてゐる。是等畫家の作を以て米國繪畫の見習ひ時代は終りたるを示すと言ひ得るやは疑問なれど、バルピゾン派の畫風を獲得して圓熟の境に達せしめたとは確に言ふ事が出来る。インネスの作を見ると、ステューアートが肖像畫に於て英國の畫風を取入れたと同じ程度に於て、インネスはバルピゾン派の風景畫を其手に入れたと謂ふを得る。

米國畫家の佛蘭西畫を學ぶは單にバルピゾン派に止まらなかつた、更に進んで米國畫家は陸續佛國に赴き、印象派及後期印象派の畫風を收得せんとして努力した。而して印象派の繪畫は又米國鑑賞家の隨喜する所となり、美術館の如き或は俱樂部

の如き、或は個人の收藏の如き争て之を求めマネー、モネー、ピッサロールノアール、シャヴァンヌ、セザンヌの如き其傑作を米國に於て見るを得るに至り、シャヴァンヌの如きを米國に招聘し、ボストン圖書館の大壁畫を描かしめた。ドカー及ロダインの繪畫の如き亦之を集め、殊にロダインの素描風の繪畫は紐育、ボストンに於て之を見るを得る。是等諸作の影響により印象派及後期印象派の畫風は益米國畫界の一重要となるに至つた。

四

既に述べたる所により知らるゝ如く米國の畫家は長い時日を費せし英國の肖像畫や佛國の風景畫を其國土に移植した。殊に最近に於ける英佛の蒐集が此移植の効果を促進した。然かし歐洲の畫界に依囑する丈けで満足する事が出来なく、米國の國土より産れ出づる藝術が欲しくなつて來た。何時頃からさうなつたかと云ふと、米國の社會が歐洲のと漸次に異つて來て米國特有の趣が出て來た事が一の條件になつたが、此時機を到來せしむるに與つて最も力のあつたのは印象派の藝術的態度であつた。印象派の藝術家は傳統的技巧や事物に對する傳統察的觀法の束縛を

脱し、自ら自然を忠實に看取せんとし、又其見たる所を自由の方法により描き出さんとした、此態度が印象派の藝術に生命を與へた、見方に於ても技巧に於ても個人的であり獨創的である、又近世の生理學心理學の考が其技巧上に影響を及ぼし新なる作風を生じた、此印象派の考察法、描寫法に薰陶された米國畫家は新なる眼を以て米國の自然なり、米國の社會なりを眺めた、而してそこに歐洲に見る事を得ざる光景の開展するに氣が付いた。

ホドン河上流域の風色は別に奇抜なるものがある譯では無い、河の中に林があつたり、河の岸に水溜りがあつたりして、寧ろ平穩なる而かも人間の手の入つて居らない谷である。色彩も至て地味なる自然であるが英國等と異りて空氣が乾燥し而して冬になると寒氣が随分鋭しい爲め水と云ふ水は悉く氷結し、然かも空氣が甚だ透明に輝いてゐるため樹木や枯草などが鮮明に見え、濕氣の多い英國では見るを得ざる一種の氣分のある光景を現出する。此光景に深き同情を有し之を描き出さんと努力せる一群の畫家が現れた、世間では之をホドン河派の畫家と呼んだ。是等畫家は其見る所を簡單なる方法により極めて忠實に描かんと期し常に屋外にありて製作を試みた、彼等は概ね力強い省略の筆を用ひた。(エドワード、レッドフィールド、Ed-

ward W. Redfield) は此派の驍將である。此畫家は好で冬枯の河邊を描く、其作 "Island" は代表的の者である、水や空は帶青灰白色、水邊の楊柳や陸上の樹木は鶯色、地上の雪は鉛白色と云ふ如き地味なる抑鬱色を用ひ而かもよく明瞭の光景を現ずる。"The River Delaware" なる作の如き陰氣なる調子に描かれたれど不愉快ならず、靜なる情趣をよく現はしてゐる。レドフィールドに限らずホドソン河派の畫家には、山間の溪流とか「楢乗り」と云ふ如き雪景を描いたものが多く、畫に深邃なる趣がある。又ホドソン河派に限らず米國の畫家中には、メッサイ (Edmund Messer) の如く或はサイモンズ (Symond) の如く、落着きたる色彩を用ひ靜かなる風景を描くに於て隨分優れたる畫家がある。

メソンの海岸は北大西洋に面し其波濤は頗る雄大であつて且晴れたる空の色と映じて美しい、海岸の巖石の斜層は太西洋波濤の襲來に抵抗し、此波濤に珍らしき趣を添える、斯る獨特の波濤の光景を描き鑑賞家のみならず、藝術家の驚異となる作品を生じたのはウァンスロー・ホーマー (Winslow Homer) である、此畫家はメソンのスカッポロに隱遁し、力強き自然を觀察し自然の偉大を深く感得した。紐育のメトロポリタン美術館にあるホーマー作波濤の三額面は其描法の巧妙にして大膽なる畫界に

新機軸を出だしたと謂ふを得可く、波濤畫の神品にして何れの國の波濤畫の傑作とも匹敵する事が出来る。ホーマーは最初は海を背景とせる人物を描いた、後には人物を添景として海岸の風光を描き、更に進んで人物を捨離し海其物を描き、遂に波濤の藝術的極致を見出だすに至つた。メトンの波の筆法は東洋の畫の筆法に餘程類した所があり波の動力を捉えて表現したる如き趣がある、米國の畫家中筆の奔放自由にして大膽且つ傍若無人の趣あるはホーマーとサーデントの二人である、此兩畫家は油繪と共に水彩を描くに妙を得てゐる、サーデントは霸氣餘りあつて往々氣障な所があるが、ホーマーは衝氣なく快い、其作には出來不出來があるが出來の佳いものになると米國繪畫の作品中第一流の地位に立つものがある。從來米國の畫家の歐洲の美術展覽會などに出品するものを見ると、夫等作品は巴里の影響や英獨畫の影響を反映するに過ぎない。一體に亞米利加的美術なるものがあるかと云ふ疑が批評家の間にあつた。然るに一九〇〇年の萬國博覽會の亞米利加繪畫部に陳列された作品中畫の動機及性格から見て歐洲の反映に過ぎないとして見過する事の出來ざるものが現れた、ウインスロー、ホーマーの畫に斯る點に於て特に注意す可きものがあつた、批評家が之を見て、其畫に新なる調があつて、之を歐洲畫の影響に歸着せしめ、

其技巧に連絡せしむる事が出来ない、確に其所に新なる力があり、獨立がある事を認め、米國畫家の作品を見ると多くは卒直で寫實的であるが、往々詩的感情を以て着色せられ、而して健全なる上達せる技巧を示してゐる、殊にホーマーの作に於ては著しく眞面目の力と、直接獨立の見方と、強い卒直なる手法とが現れてゐる、歐洲の批評家は遂に斯る男性的の性格が亞米利加美術を眞に代表してゐるのであるかも知れないとの結論を下すに至つた。

米國の自然は氣候の關係上寔に烈強なる色彩を輝かすに於て他に比類の稀なる風光を現出する、路機山間の谷や紐育州及びニューイングランドの或る地方は樹木が美しく紅葉する所であるが最も美しいのはレノックスヴァレー (Lenox Valley) の紅葉である、此山間は清流あり、湖水あり、小山の波連りて平遠の風色愛す可きものがあり、見渡たす限りの紅葉に秋の日が射る時は滿眼火炎の如く、澄み渡れる碧空の色と相對して空に壯なる色彩の世界を生ずる。又米國南方のフロリダやメキシコ境は半赤道向の氣爽の所で白い砂や赤い土に強い日光が當り、其處にパームやカクトスなどが嚮生し、而して強い色の花が咲く熱烈なる光輝の世界が現する。斯る米國々土の色彩を描き出たさんと久しく努力した米國の畫家がある、夫れはドッチ、マックナイト

18
(Dodge MacKnight) である。此畫家は從來の畫法の結束から脱し、着色の技巧を新にし而かも水彩を以て此烈強なる色彩と光輝とを描き出さんとして、實に大膽なる企圖を實行しつゝある。マックナイトは最初は巴里のコルモン(Cormon)の門下にあつたが、コルモンはマックナイトが甚だ正しい目を有し、且甚だよく描く事を常に嘆賞した。マックナイトは後に伊太利及南部西班牙に移り又亞弗利加に渡り、或は一轉してスウェーデンの氷雲の中に進み、日光の寒熱兩極を描く手法を工夫し、遂に米國に歸り、北方か然らずんば南方然らずんば八千呎以上の海拔の高い所を其棲息の天地とし、繪畫界に新天地を開拓しつゝある。マックナイトは北米國土の光と色とが産み出したる畫界の鬼才であつて、其着想や手法は決して他の畫家の隨從を許さない。

更に眼を轉ずると米國の社會が産み出したる人間がある。男にも女にも米國式の特徴があり、夫れは最早英國の紳士、淑女とも違ひ、又佛國のとも違ふ、自負心があり、銳利であり、元氣があり、富有であり、而して人に愉快を感ぜしむる丈けの相好を有し、何等かの點に於て手應へがある。其特徴を抄録するは容易でないが、一見して舊世界の人間と區別するを得る外觀を有する、ジオーン、サーデメント、やウヰリアム、チェイス(Chase)は斯る米國社會の特産たる風采を描くに於て成功した。サーデメントの "Rose-

Mane の如き明眸皓齒の米國婦人にて清爽なる心が透き通りて畫面に出づ、指頭の恰好は其婦人の性格を示すに於て絶妙である。亞米利加の女を此位よく捉えた繪は容易に見出だし難い、而かも筆は大膽にして驚く可き程簡潔である。サーデントはホイスラーと並び米國畫家中最も有名なるものであるが、兩畫家の作の動機は正反對になつてゐる。ホイスラーの超越を揣摩するに對し、サーデントは現實を掌握せんとする。兩畫家時代民衆の趣味を卓越せるを自覺する點は似てゐるが、ホイスラーは世俗向きの人なれど其藝術は詩の境界に隱遁する、サーデントは之に反し其人隱遁的なれど藝術に於ては事物の外觀の華やかなるを樂しみ物質的意義に重を置く、兎に角サーデントは肖像畫家としても頗る卓越せる趣がある。ウィリアム、チエリスの作上院議員クラークの肖像の如き、ワシントンのコルコラン美術館所藏は運筆達者にして色調よく極めて高尚なる畫にして、米國の代表的市民の肖像畫として好箇の標本である。更にチエリスのホイスラーの肖像(紐育美術館所藏)の如きはホイスラーの一生の藝術其儘を躍如たらしむる神品と云ふ可きである。是等の人物畫は歐洲の肖像畫と餘程趣が異つてゐる。

米國の社會は大體は向上的であるが其裏面に一時的の頹廢の氣分なきを得ない。

殊に此類廢氣分が女の方に出る。假面的の社會生活に倦み、深夜に亘る快樂生活に疲れ朦朧として喪心せる如く長椅子の上に横はり、或は現の如く朝を迎え食事をするさへ懶く感ずる女を描きたるものに注意す可きものがある。フリトセッケ (Friesack) の昨冬の作「青衣の女」或はチャイルド、ヘッサム (Hessum) の「紐育の窓ぎは」の如きは孰れも斯る疲勞倦惰の女を捉え沈靜の氣分ある青色を主として其の苦心の筆を揮つた。フリトセッケの作の如きは其背景の壁の模様や長椅子の形狀の如き裝飾的方面に多大の工夫を凝らし其構想の複雑であるのみならず其實現の手法亦濫い凝つたものである。「The Little Prince」の如きは藝術家及鑑賞家の深き考察を促す作であつて一面は感傷的なれど一面は頗る理智的である。最近に於ける諸作を見れば米國畫家は既に横傲の時代を去り自己の頭と眼とを以て人物なり社會なりを洞察し又之を現ずる爲めに新なる手法を以てするの力を有するに至つた事が明らかである。

更に北米大陸の西部には歐洲の藝術國に於て決して見る能はざる大風景があつて畫家を刺戟する第一はマリボサの大森林と之れに連るヨセミテの峽谷である、ロバート・ヘンライ (Robert Henley) の如きは數千年に亘り鬱鬱として生長せる大樹林の光景を其天才的の閃きのある筆を以て描かんと試みた。ヨセミテの峽谷の如きは支那山水

畫の手法により之を描くに適する。洋畫を以て此趣致を示すは餘程の新手法を案出せねばならない。米國の畫家は今は之れを描き出さんと苦心をしてゐる。大風景の第二はエルローストーン山中の風色である。地球の形成せらるゝ開闢の初めから今日に至るまでの自然の恐ろしき働を眼前に演出しつゝある如き風景にして全山噴火孔の上に置かれたる趣ありて、宛然地獄と極樂の風景を綴り合はせて出來た山水卷物の趣がある。此不可解の大山水を如何に描き出だす可きやは、米國の藝術家に懸けられたる一の謎である。トワトマン (Trotman) のごとき此の大山水の興ふる氣分を本意にして之を描かんと試みた。山水卷物は東洋藝術の天才が發明したる畫法であるが若し米國の藝術家が繪卷物式の描き方を採用し工夫を凝らすなら、恐らくヨセミテやエルローストーンに關する藝術上の難關を切り抜けることが出來るかも知れない。米國畫家にして斯る大山水を描くに成功せば、其のときは實に米國の國土が産み出だしたる繪畫が出來る、兎に角幾多の畫家は既にこれに指を染めてゐるのである。米國大風景の第三たる、グランド、カニオンに至つては他に容易に其の比類を見出だす事が出來ない。此カニオンは幅十哩深一哩、コロラド及びアリゾナに亘り蜿々連れる大谿谷にして其の谿谷中に、峯巒重疊し、谷中一本の樹木なき

奇勝であつて種々異なる地層の色と、日光の輝きと空氣の重疊とが相合し滿眼の峽谷をして紫色系の絶妙なる色彩の風光を開展せしむる。如何にして此景色を表現す可きやは又全く新なる問題である。モートラン (Moran) は之を重に形狀上より描寫せんとし、マブグナイドは之を色彩上より描寫せんとし、孰れも非常なる苦心を重ね、マブグナイトの知きはコロラド方面のカニオンの人跡なき所に小屋を設け、嚴冬の寒さを犯し久しくそこに棲息しカニオンの氣象を描くを試みた。グランド、カニオン中に重疊する峯巒に世界の聖賢神佛の名を興へたるは、何人の作意に出でしか明ならざれど、此景色の氣象を最よく表現する。米國の風景中にて神祕の趣を有するはグランド、カニオンを以て第一とする。此カニオンからは繪畫、詩歌、音樂何れの方面にも新藝術が喚び起されつゝある。米國の三大風景は其規模の絶大なるに於て、自然の勢力を示現するの凄じさに於て、又自然の幽玄を發揮するに於て何れも米國式を代表し、米國の社會上の規模の壯大なると趣がよく似てる。今日既に此風土から繪畫の呼び出されてゐるのを見ると、米國の新藝術が益米國の風土と親密なる關係を有するに至るべき事が豫想される。米國南西派の藝術家と稱する一派はニユー、メキシコ及びアリゾナよりロッキー山に至る風景を描き出だし、其自然を藝術的に解釋

し藝術界に一旗幟を植てんとの氣概を有してゐる。シェルドン・ハルソン (Sheldon

Parsons)は「グランドカニオンの午後」サンタ、フェの二月の朝「暴風雨の到來」の如き畫題の下に南西の自然の眞粹を捉え幾多の傑作を出だした、ビルゲル、サン、ドゥツェン(Birger Sandzen)は山嶽を描くに於て新機軸を出だす、其の作“Alone in their Majesty”及び「路機山の森林帶以上」兩作サンタ、フェ新美術館所藏の如きは共に實に大膽なる太い棒の如き線と青、黄の簡單なる色を用ひて山嶽を描く、之を遠望すれば驚く如き効果を生じ、自然の力を眼前に躍動せしむる。サン、ドツェンはスウエーデンに生れ、巴里に於ても修業したる人であるが、米國に移り其自然を描がんと努力する、其藝術の狙つてゐる所を述べて左の如く言つてゐる、大なる藝術は其規模及性質が國土的と云ふよりも、寧ろ普遍的である。然かし藝術の歴史より見ると、眞の個性と普遍性とに到る安全の途は國土的の事物を長い間眞實に研究する外に無い、吾々に最も親密なる事物に就て吾々は最良の藝術的解釋をなすを得る。而して傳統や、宗派や、先輩畫家や、技巧上の誤つた觀念を迷信的に尊敬するのは國土的藝術の健全なる發達を妨げる、技巧とは單に自己を實現し、個性を表現する力を指して謂ふのである。亞米利加の國土は無限に異なる題材を藝術家に提供する。若し藝術家が單に之を模倣するのみ

に非ずして、眞實なる同情を以て之を解釋する事を企圖するなら、永久的價值を有する亞米利加藝術なるものを生ずるに至るこれは偶サンドゥエンの語になつて表れた實は所謂南西藝術家のみらず、米國の少壯畫家の暗に狙つてゐるところを示す語である。

五

米國藝術の發達上より見て尙ほ一つ重要なる方面は西班牙藝術の流である。最近の狀況に就て見ると米國は西班牙を研究する事に留意し紐育に西班牙研究所(Panish Institute)なるものを設け歴史的研究をなすと同時に西班牙の繪畫彫刻陶器の優秀品を集め、繪畫は古い時代のもではウラスケスとゴッヤーの二名の佳作がある。是等の人物畫は西班牙藝術の一般の趣致をよく示す、即ち個々の人間の永久的持續的特徴を描き其人物の眼孔からは其人の久遠の魂が我々を眺めて居る様な趣があり、黑色を巧に用ひて深玄の趣を生ぜしめ、頗る上品にして貴族的なる所がある。イグナチオ・ツロリアガ(Ignacio Zuloaga)はウラスケスやゴッヤーの畫風を現代化し之に活動、滑稽動もすると不安の意を加味してゐるが、矢張深刻であり、永久的である。西

班牙の繪畫に現する久遠、靜止の狀態を其最も著き形に於て現はしたものは西班牙の墳墓彫刻です。久遠の眼と云ふ如き狀態が西班牙藝術家に對し一種の魔力を有してゐた。又西班牙の宗教彫刻に至ては出世間的の柔和慈悲の心を表現し、日本の佛像繪畫に現れてゐる所と同様なる氣分を現はし、極樂の心持を衣服などの美しき裝飾により示す事も一致してゐる。英佛の系統を引いて居る米國人の生活中には見出だす事を得ざる如き靜寂趣味が米國に蒐めてある西班牙藝術中に漾つてゐる。斯る閑寂趣味が米國の藝術に何程影響を及ぼしてゐるか明らかで無い、然かし米國現今の繪畫の作品中西班牙畫の技巧並に其閑寂趣味に影響されたと思はるゝ作品に時々邂逅する事がある。西班牙畫家中で西班牙藝術の靜寂趣味より出で活動的ならんとし暗黒色より出で明快色に移り、典型的技巧より自由技巧に移らんとして努力する藝術家にソローラ(Solera)がある。ソローラの作は米國に數多く來てゐて其藝術は米國人には甚だ了解され易い而して其亞流もある、然し大體の傾向から云へば繪畫の方面に於ては米國は英佛の繪畫により強く影響され、西班牙畫の影響は比較的弱いと謂ふを得る。米國の藝術に對する西班牙の貢獻は建築の方にある。

25 西班牙人は初めフロリダに其根據を置き、又たミスシスシッピー河以西ロッキート山麓

に至る廣漠たる土地を領有した、今日のテキサス、アリゾナ、コロラド、ユータ、ネヴァダ、カリフォルニアを包含する土地は即ち夫れである。西班牙が是等の地方に遺こしたる建築は二種類ある。一は城砦にして、他は寺院である。城砦の完全なる遺品フロリダのセント、オースティンにあるマリオン城砦（一七五六）である、然かし此種の建造物は其後米國では發達しなかつた。寺院は米國の最西端なるカリフォルニア沿岸サンチエゴよりサンフランシスコに至る間に驛路を逐ふて建立したものに於て、これはフニペロ（Junipero）及其一派の傳教者の努力に依つたもので、當時未開のカリフォルニアに對しては實に偉大にして、又趣味深き建造物であつたと謂はねばならない。是等の建築はアーチのある廻廊を帯び内部に小室を多く有し、寧ろ僧侶の冥想修道に適する僧院（Monasterio）の如き性質を有し、大抵形勝の地に立てられ廻らすに樹木園庭を以てし靜寂脫俗の氣が漲つて居る。ニューヨーク地方に清教徒が立てた教會や、今日の米國の繁華なる市街に立てられたる寺院とは全く性質が異ひ人間が世の騷擾より去つて自然と神とに融合するに適したる場所の如く思はるゝ今も僧服を着けたるものが其寺院中に修道をしてゐる。カリフォルニアの沿岸に驛路に従て立てられたる寺院に西班牙風の建築が多少カリフォルニアの自然に影響

されて出來たるものにてカリフォルニア寺院様式ミスシヨレンススタイルと稱せられるが此様式は未だ必しも米國の國土其物が生じた藝術と認むる事は出來ない。然るに他の方面に於て西班牙建築は亞米利加の國土に根據を有する建造物に刺戟を與へ新なる建築の様式を發達せしむるに至つた、夫れはアメリカ、インデアンの民族の建造物を基礎として出來た寺院建築である。

今日の所謂ニユ、メキシコ地方のアメリカ、インデアンの民族の間に傳教しフランシスカンの僧侶はメキシコの方から來た、フニペローも西班牙からメキシコを経てカリフォルニアに向つたのである。フランシスカンは傳教の目的を以て深く内地に進み、アメリカ、インデアンの住する部落内に寺院を建立した、斯る寺院はアメリカ、インデアンの個々家族の住宅及部落の共同式住居を規範とし、之を擴大し近代的生活の目的を達する爲に工夫を凝らして出來たる物であつて、アメリカ、インデアンの建築物の性質を保有するを努めたものである。斯る建造物を部落様式 (Pueblo Type) の寺院と稱する。フニペロー及び其一派の傳教者が立てたカリフォルニア寺院様式とニユ、メキシコに散在する部落様式とは建築上如何なる關係を有するかの問題に就ては識者間の意見が區々に別れてゐる。カリフォルニアの寺院様式ミスシヨレンススタイルとアメリ

カ、インデアンの部落住宅との結合してたものがニュー、メキシコの部落様式の寺院となつたと考へる建築家もある、或は部落様式の寺院はカリフォルニア寺院様式とは別であると論ずる人もあるが、恐らくニュー、メキシコの寺院はアメリカ、インデアンの建築物が根元になり之れに西班牙の寺院様式ミッシン、ミシカールが養分を與へて生長せしめたと見る事が出来やう。部落様式の寺院の内部にモロッコ及びバアルゼリア風の裝飾が施してあるが、是等の裝飾、模様は環境の同様なるが爲め自然に出て來たのではなくして、西班牙建築の媒介を経てニュー、メキシコに入來した物と見て大過は無いだらう。

カリフォルニア寺院を見ると寺院と自然の景色との調和を重んじ、自然の中に神の姿を認め之を愛護すると云ふ如き考が含まれてゐる、餘り自然を離れないで宗教的生活を味ふと云ふ趣がある、人間を離れ寧ろ自然に近いと云ふ考がカリフォルニア寺院の姿を定むる上に重要な影響を有つて居つたやうである。今眼を轉じて見るとアメリカ、インデアンの自然觀なるものが亦彼等の建築の様式を定むる上に大なる力を有してゐた、彼等は此國土は「空の父」(Sky Father)の造つた所のものであつて、人間が之を毀損し、或は之を變更する事は宜しくない、人間は國土其儘の形勢を利用し、此國土に住はねばならないとする。又自然の形狀なり、現象

なりが、人間の拵らへる家屋なり製作物陶器、織物、籠細工等なりの模範にならねばならないと考へ、彼等は其裝飾模様を雲や電に取り、其裝飾の色彩を虹霓や花に取る。家を建つるや其形を岡や峯に擬し、屋上に屋を重ね、外より出入上下し宛然岡に上るの思あらしめる、床は自然の凹凸其儘に従ひ、乾燥せる煉化石様の泥土を積んで壁とし、屋根も亦同様の泥土を以て之を被ひ、直線を避けて自然物の婉曲線に従ふを可とする。人間の拵らへたものを自然に近からしめ其間に差別なからしむるを以て樂しみとする。アメリカ、インディアンの有する斯の如き自然觀なり、藝術觀なりに對し、西班牙の傳教者は深き同情を注ぎ得る人生觀を有して居つた、そこでアメリカ、インディアンの部落の中に寺を建つるに當り、土人の建造物に對する考と、西班牙の寺院様式とを調和させて部落様式の寺院を建てたのである。

ニユーメキシコのアメリカ、インディアンの棲息せる地方には自然に出來た建造物の如き形狀をそこへに見出だすを得る。之は谷や丘にある粘土や砂岩が風雨の爲め侵蝕され自然に建造物の形を生じたのであつて、往々大なる寺院の如き外觀を呈してゐるものがある。アメリカ、インディアンの共同住居中には斯る形を模し造られたるものがある、而して壁も屋根も煉化石様泥土(Adobe)を材料にして家を建てる

30
と斯る可塑性の材料が風雨の爲自然に侵蝕され赤手を以て拵らへた如くに漸次に形状が溫和になり丘陵の形状に益近似するに至る。フランシスカンの僧侶がインデアンの部落内に寺院を建つる時、一はインデアンの住居に倣ひ、又一は自然に出来た建造物の如き形状 (Cathedral form) に倣ひ其寺院の形状を工夫し、アドベと木材を以て之を建てた。之はフランシスカンの藝術的趣味の優秀であつた事を證明する、若し歐洲の寺院建築を其儘に單純あるアメリカ、インデアンの部落の中に立てたなら、夫れは周圍の住家なり、自然なりと餘りに隔絶したものととなり、建築夫れ自身が何等の意義の無い、又インデアンの同情を惹く巍然としてインデアンの部落の中に立つのを見ると全部落の建物に眼睛を點した趣があつて、單に周圍との調和がよいのみならず、周圍の光景に意義あらしむる効果がある、此寺院は部落の中央に高丘の如く、インデアンの住家は之を繞る小丘の如く見える。此ブエプロイ様式の建造物は米國南西の山河國土が出たしたる様式にしてアメリカ、インデアンの自然觀が其重要なる規定者になつてゐる。而して更にニュー、メキシコの寺院様式を世俗化し、之に現代の諸利便を加へ更に大規模のものに發達せしめたるものがサンタ、フェ式の建築である、斯る建築が公共的建物としてそこゝに建てられ、サンタ、フェの奇觀にな

つてゐる。サンタ、フェの新美術館は其最も理想的のものである。此新美術館はブエプロー式の諸寺院の形状を分解的に考察し其最も美しい方面を綜合して全體の建造物を案出した。即ち新美術館の一般の構造と南面の形状はアコマ寺院 (Acoma Mission) を模範として考案せられ、新美術館の大講堂の外部の露臺はサン、フェリッポ寺院 (San Felipe-Mission) の正面の露臺の趣向を取り、新美術館の東面はラグーナ寺院 Laguna Mission) により其形状を暗示せられ、北面諸壁重疊の状はタオーの部落の共同住居 (Taos Group) より之を採擇した、此美術館全體は大伽藍であつて構想は複雑であるが、比較的簡楚に見え趣致が深い。畫家ロバート、ヘンライは此新美術館を讚して、多くの美術館は澁面を作り陰氣な姿をし懷郷病に罹つてゐる如く其産れた希臘の空を望んで追憶の情に堪え難い様子をしてゐる獨りサンタ、フェの美術館はサンタ、フェの天とサンタ、フェの山の貴い兒子の如く、親の顔貌を生き寫しにしてゐる、此土地生え抜きの姿で自分の家に育つてゐる兒子の如くに見へる、假令此館内に美術品を寶藏する事が無くとも、館其物が美術品である。此時代、此土地、此民族の生じた美術で、而して又過去から産れ出た美術である」と言つた。此外ブエプロー建造物の精神を體現してゐる興の深い建築物はサンタ、フェの聳陞院である。小規模なれど個人の住

居してニュー・メキシコの史家トウチエル (Twitchell) 氏の住宅の如きサンタ・フェ式の最よき一例で、内部の構造も快く、周囲の自然と其風土に最よく適したる建造物である。サンタ・フェ式に近似の建築物はニュー・メキシコ及びカリフォルニアの他の所にも数々之を認むるを得る。建築の美は其周囲の自然に依囑する事なほ植物の美と同様である。希臘の雅典のアクロポリスの上に建てられたる殿堂は天下無比の壯觀を呈すれど、之れと同形の建築を煤烟の多い、温氣に満ちた、土地の高低の無いロンドンの市街の真中に建てたのでは意味の無い建築になる。サンタ・フェ式の建築を市城古や紐育の市中に建て、も何等の効果は無いだらうがニュー・メキシコ、アリゾナ、カリフォルニアの土に於ける此様式の建築は恰も熱帯地方に於けるロイヤル・パームの並木の立つと同様なる美觀を喚び起す、畢竟するにサンタ・フェ式の建築は南西の國土と其の土人の考とが影響して出したる自然の様式である此様式はなほ將來に發達する餘地はあるが米國の新藝術として最も注意す可きものである。サンタ・フェ様式建築の外ニュー・メキシコアリゾナ及カリフォルニアの東南部には南部西班牙風の建築が停車場或は旅館の建築様式として用ひられる、是等は周圍に餘り家屋などなき所に孤立して建てられて居るが赤土の沙漠の景色とよく調和し、

殊に其壁に赤土色を用ひ、環境との昵みが好い。カリフォルニア寺院様式 (Mission style) 部落様式 (Pueblo style) 或はサンタ、フェ様式の建築或はアメリカ、インディアンの住居が周囲の自然と調和するの状は特別の風姿がある、之れが畫家の考を刺戟し、此の光景を繪畫として描くものが段々に出て來た。カールロ、ヴェラ (Carlos Viera) は

“As ‘The Sky Father Builds’”の題下に自然に出來た建造物の如き丘陵の形を描き之を
 始めとして、ラグーナ寺院以下の八寺院を其背景と共に描いた、其他、黄昏のエメツの
 部落や、イルデフォンゾの部落及其舊寺院と云ふ様な、エプロの光景を描いた、
 是等はサンタ、フェの新美術館の所藏になつて居る、必しも優秀の作品とする事は出
 來ないが着想や技巧は南西藝術家の狙ふ所を示してゐる、又シエルドン、バルソンス
 (Sheldon Parsons) はシエリ、峡谷 (Canon de Chelly) 中の光景や自然に出來た建造物風の形
 状を描き、何れも南西風光の藝術的表現を試みた。其、聖なる所の如きは秀逸の作で
 ある。

六

アメリカ、インディアンの住居及其自然觀は以上述べたる如く南西藝術を發達せし

ひる一方の原動力となつたのであるが、更に此民族の外貌と其生活状態と其宗教的觀念とは米國の藝術家を刺戟せずして止む事が出来なかつた。歐洲の或る藝術家は遠く未開の嶋嶼や大陸に渡り未開民族のうぶなる生存狀況を描いた、然るに米國では交通の便を去る遠からざる所にアメリカ、インディアンの如き藝術の好對象たる民族を見る事が出来るので、米國の藝術家は傳統的の藝術を脱し新なる藝術を工夫する好機會を有する譯である。

前に擧げたるマリボサの大深林、ヨセミテの峽谷或はグランド、カニオンの如き偉大なる風光を有する地は元アメリカ、インディアンの棲息地であつた、殊にサンタ、フェの高原及び其附近の平野は彼等の根據地であつた。彼等の生活の狀況なり其宗教上の觀念なりは是等自然の風光に規定せらるゝものが多かつた。アメリカ、インディアンは骨格が逞しく顔面の刻み方が深く、黒髮黒顔の面白い趣がある姿をしてゐる、男女に拘はらず其好む所に従ひ衣裝を飾り、華手なる色彩を輝やかして、赤土色の山野を背景に立つ時は風采の堂々たるものがあり、美麗なるものがある。而して此アメリカ、インディアンは白人に魁して米大陸の森林を探検し、大湖水を渡り、大西洋沿岸より太平洋沿岸に廣がれる殆んど無限の荒野沙漠を跋涉した民族である。然るに

白人の文明の戦線の前進するに従ひ驅逐せられ漸次其棲息の地を失ひ衰頽して今は僅かに一縷の命脈を維持するに過ぎざる状態になつてゐる、此インデアンを同情の眼を以て見、其生活を文藝の形に於て始めて現はしゝものはクーバー (Cooper) であつた、クーバーはインデアン民族の習慣や、風俗や、性格を文藝界に提供した。

此民族の外貌或は生活の外観を繪畫と彫刻の兩方面に於て藝術的に描寫し始めたのは比較的最近の事に屬する。ロバート、ヘンライの作「イルデオンゾ」の鼓手や、インデアンの少女の如きは秀逸なるものである、ヘンライは殊に色彩に重を置いて描いた、尤もヘンライはインデアンの學校などに於てモデルを得て描くが故多く人物の肖像にて、インデアンの部落に深く入り込んで畫くにあらざるが故インデア人と其環境を結び付けて畫いたものが尠い。インデアンの精神的生活及其生活の表現を描くに力を注いだ畫家にワルレン、ローリンス (Warren Rollins) がある、其作「悲哀及偵察」の如きは代表的のものである、インデアンの人物を環境に結び付け其内の生命を描き出だすに於て有名なる畫家はシャープ (J. H. Sharp) である、サンタ、フェ新美術館所藏「The Storie」(苦業)の如きは此民族の宗教的克己心の極めて深刻なる状態を示し又其部落の史家の如きは歴史口傳の趣を畫きたる巧妙の作である、又ブルト

36
メンシャイン (Ernest I. Himmelschein) の「雄辯家」の如き趣きの莊重にして深刻なるものがある。

米國の北方を旅行すると處々にアメリカインデア人を彫みたる銅像の立てられたのを見る、例へばソルレーキの州廳の廣間にインデアン騎馬の銅像の風姿颯爽たるものが安置せられてある。又市俄古リンコロン公園の或る記念像の臺座にアメリカインデアンの生活の諸方面を刻みたるものがあり、或は紐育にはアメリカインデア人が野獸と格闘する彫像があつて、是等の彫像を現代都會の中に見ると周圍と何等の關係なく、餘り奇を好む彫刻を設けたるものゝ如く見え何等の意義を認むる事が出來ないのであるが、米國の南方を旅行して親しくインデアンの棲息する地に臨み、且南西藝術家の作品を見て後考へると、是等彫刻は米の國土より發生せる藝術の一大傾向中の作品が斷片的に北部に散在したのであると云ふ事が譯る、而して此傾向中に位置を興へて考ふる時は、是等彫刻は頗る意味を有するのみならず、其技巧は概して大膽にして力強い、米國の藝術家は其國土中に潜んでゐる自然の力をインデアンの姿を假りて彫み出した如き趣がある。

更に米國南西地方の來歴を溯つて見ると、西班牙の米土占領、フニペロのカリフ

オルニア布教、西班牙人とアメリカ、インデアン人の離合、米國に於ける西班牙の政權と教權との争、西班牙勢力の失墜等の歴史は寧ろ悲劇的の事變の系列である。北米大陸の南西の天地を背景として起つた此事變は藝術の好對象である。最近に此歴史的事變を演藝に仕組み宣教劇 (Mission Play) と稱し、サン・ガブリエル (San Gabriel) の古寺に於て之を演ずるに至つた、米國に演ぜらるゝ劇中に於ては上乘のものであつて、其趣稍日本の「勸進帳」に類し、頗る心持の佳い劇である。南西の藝術の精神を示すに於て注意す可きものがある。カリフォルニアの宣教に就ては以前から種々書かれた者がある、スターンフォード大學の英文學教授ウリアム・ホドソンの著「カリフォルニアの有名なる寺院」(Famous Missions of California, 1911) は小冊子なれど頗る要領を得たるものである。然しカリフォルニアの宣教が脚本に仕組まれて出たのは一九一一年で、筆者はジョーン・マックグロルタイ (John De-you Mc (Franky) である。

マックグロルタイはカリフォルニアの歴史を書き、又カリフォルニアを詩にして歌つた人であるが、カリフォルニアの宣教の歴史を中心にして劇の脚本を書きたいと云ふ事を長い間夢想してゐた。然るに偶然にも他に尙ほ一人の人があつて同時に同じ考に鼓吹されてゐた、夫れはリヴァサイドのフランク・ミルラー (Frank Miller) と云

ふ人であつた。ミルラーは或る夏獨逸のオーパーアムメルガウに於て十字架劇(Mission Play)を觀て、カリフォルニアに宣敎劇(Mission Play)を仕組みたいと云ふ考を懷いた。ミルラーは米國に歸ちプリンストン大學英文學教授のヘンリー、ヴァンダイク博士(Henry Van Dyke)に宣敎劇を書く事を乞ふた。然るにヴァンダイクは「君の自身の州に於て其人を求めては如何である、私なら今後少くとも四ヶ年間カリフォルニアに住居せなければ斯る脚本を書くに適當した心持になる事が出來ないだらう」と言つて此仕事を引受けなかつた。

ミルラーはカリフォルニアに歸り、スタンフォード大學の總長ラビッドスター、ジョウオルダン博士に逢ひ其意見を求めた。ゾルダンは言下に「夫れは、南カリフォルニアに君の鼻の先きに適任者があるでは無いか、さう云ふ劇を書く事の出来る唯一の人物はロスアンデェルス、タイムス(Torrey's Times)のマックグロートルターである」と答へた。

ミルラーは自己の無知なるに驚き、其友人であるマックグロートルターを訪ひ、宣敎劇を書く事を乞ふた。マックグロートルターは既に久しく之を試み様と望んで居つたので、遂に、ミルラーから物質的の援助を得て、リヴァサイドに移り、其描かんとする時代の遺跡遺物の間に身を置いて脚本の著作に従事した。マックグロートルターはカリフォルニア

アの最愛の養子であつて、ペンシルヴァニアの愛蘭土系の産で、羅馬加特力教の信者であるから、カリフォルニアの宣敎劇を書くに最も適當な資格を具へて居る人である。脚本は出來上つたが、之を上場するに際し、マックグロルティの要求する規模が餘り大きいので、ミルラーは辟易し、マックグロルティは遂に獨立經營の任に當り、一九一二年の四月二九日に第一回の演劇をサン、カプリエルに興行し、爾來每春之を上場してゐる。此劇はカリフォルニアの過去を眼前に復活開展せしめ、美しいカリフォルニアに意味の深い背景を興へるので、南西の國土藝術として見る時は頗る深い味がある。米國人の精神的生活には時間的の厚さが乏しい、從て其藝術も動すれば刹那的になりて、追懷を味ひ樂しむ方面が欠けてゐる氣味がある、然るに米國南西の藝術に於て多少時間的の厚さが現れ、追懷の趣が加はつて來た事は、藝術上から見て大に喜ぶ可き事である。

以上舉げたる如く米國の成形美術を通覽すると、米國の藝術は英、佛、西三國藝術の移植模倣に始まり先づ其形が出來た、而して米國の特別なる自然と社會とに對する藝術家の自覺と、其土人の生活に對する同情とが夫々の方面に於て藝術家の着想と手法とに強い影響を及ぼし、漸次に國土的の藝術を催起するに至つた。而して歐洲

40 方面よりの藝術的刺戟と米國土の方面からの刺戟とは斷えず働いて新藝術を開展せしめつゝある更に最近に於ては此藝術的の流れの或る部分に東洋の藝術が少しづつ其感化を及ぼし始めた。米國の藝術は過去の發達過程に相當の興味があり現在の躍動に壯なるものがある、米國人は米國は世界藝術の鎔化爐であると誇つてゐるが、兎に角其將來は頗る有望であると認める。

參考書類

- U. H. Cuffin, *American Masters of Paintings*, 1913.
 *American Masters of Sculptures*, 1913.
 Various Catalogues of Paintings, published by The Hispanic Society of America, New York.
 H. W. Mabie, *American Ideals Characters And Ideals*, 1915.
 Boston Transcript, 1918-1919.
 Christian Science Monitor, 1918-1919.
 Carlos Verrea, *New Mexico Architecture, Art And Archaeology*, vol. VII, Nos. 1, 2, 1918.
Paintings of The South Western Artists, Art And Archaeology, vol. VII.
 W. H. Hudson, *Famous Missions of California*, 1901.
 Mission Day Special, California life, vol. XV, No. 12, 1919.
 John Steven McCreery, *California, Its History And Romance*.
 Clark Wissler, *The American Indian*, New York, 1917.
 Flory E. Goddard, *Indians of the South West*, New York, 1913.
 Desmond Fitzgerald, *Dodge MacKnight, Water Color Painter*, 1916.

S. Hartmann, The Walfar Book, 1910.

" " , A History of American Art, 2 vols.

(終)